プレスリリース

中部学院 大学院・大学・短期大学部
CHUBU GAKUIN UNIVERSITY / COLLEGE

2010 年 11 月 15 日

報道関係各位

中部学院大学
各務原シティカレッジ

本学各務原シティカレッジ生　長谷川智也

全国史上最年少で公認会計士試験に合格、計３人が合格

中部学院大学各務原シティカレッジ「会計プロフェッショナルコース」の長谷川智也＝岐阜市＝が、ことし 8 月に行われた 2010（平成 22）年公認会計士試験（論文式）において、全国史上最年少となる 16 歳で合格するという快挙を成し遂げました。

合格者は 11 月 15 日、公認会計士・監査審査会より発表されました。受験者データは、願書提出者数（a）25,648 人、論文式の受験者数 5,512 人に対して、合格者数（b）は 2,041 人、合格率は 8%（b/a、前年 10.5 %）、合格者の平均年齢は 26.3 歳でした。

なお、本学各務原シティカレッジからは、長谷川のほか、佐々木大、木田周作が公認会計士試験に合格を果たしました。

記

■ 合格者

長谷川智也	16 歳	
佐々木　大	31 歳	
木田　周作	31 歳	（いずれも 2010 年 11 月 15 日現在）

■ 基礎データ

願書提出者数(a)	25,648 人
論文式受験者数	5,512 人
合格者数(b)	2,041 人
合格率（b/a)	8 %

※ 20 歳未満の場合

願書提出者数(a)	218 人
論文式受験者数	12 人
合格者数(b)	7 人
合格率（b/a)	3.2 %

■　公認会計士試験

2006（平成 18）年より、従来の第１次試験、第２次試験（短答式・論文式）、第３次試験（筆記・口述）の３段階５回の試験から、短答式試験、論文式試験の１段階２回の試験に変更されました。それにより、従来科せられていた「一般的な学力（従来の第１次試験）の判定が撤廃され、実質的に受験資格の制限がなくなったため、年齢制限もなくなりました。これまでの最年少合格者は、昨年の 18 歳です。

［短答式］

試験科目＝財務会計論（簿記・財務諸表論等）、管理会計論（原価計算等）、監査論、企業法（商法等）

［論文式］短答式合格者のみ受験可

必須試験科目＝会計学（財務会計論・管理会計論等）、監査論、企業法（商法等）、租税法（法人税法等）

選択試験科目＝経営学、経済学、民法、統計学より１科目

[論文式合格後、資格取得までの道のり]

実務補修の修了と２年間以上の業務補助など（合格の前後は問わず）の終了後に登録することで「公認会計士」の資格が得られます。実務補修と業務補助などが修了していない段階は「公認会計士試験に合格した者（公認会計士試験合格者）」。

【プロフィール】

長谷川　智也（はせがわ・ともや）

1994 年 2 月 7 日生まれ、岐阜市出身。

2008. 9　中学３年の時、簿記の勉強を始める
　　11　日商簿記検定試験３級　合格
2009. 1　中部学院大学各務原シティカレッジ聴講生
　　2　日商簿記検定試験２級　合格
　　3　岐阜市内の中学校を卒業
　　4　中部学院大学各務原シティカレッジ入学
　　6　日商簿記検定試験１級　東海地区最年少で合格
　　12　公認会計士（短答式）に合格
2010. 8　公認会計士（論文式）を受験
　　11　公認会計士試験に合格

（本件に関するお問い合わせ先）

中部学院大学 各務原キャンパス（担当：今井 事務局次長）　TEL:058-375-3600（各務原キャンパス）

長谷川さん「早く実践の場で力を試したい」

「分からないことを積み残さず、しっかり克服してきたことが、良い結果につながったと思います」。中学卒業後、わずか 4 カ月で、日商簿記 1 級に合格し、翌 2010 年には公認会計士試験に合格した長谷川智也さん。日ごろの勤勉さと目標に向かうひたむきさが快挙をもたらしました。

簿記に出合ったのは一昨年 9 月。かつて会計事務所に勤めていた父親の勧めでした。周囲は高校合格に向けて受験勉強一直線の中、長谷川さんは「18 歳で公認会計士になる」という目標を立てました。大きな決め手は、本人、父親ともに尊敬する本学経営学部の森均教授の指導方針でした。「人間教育」を教育理念として、一人ひとりの持つ個性を伸ばし、本人の持ち味や能力を最大限に引き出すのが“森均流”。県立高校教諭として、数多くの公認会計士や税理士を輩出し、本学教授に転身後は、全国大学対抗簿記大会 1 級の部で 2 連覇に導きました。長谷川さんは、一昨年秋の簿記 3 級合格後、森教授の門をたたくことにしました。「興味の持てるものが見つからなかった時に簿記を知り、一つひとつを理解していくことに楽しさを感じました。もっと勉強して専門知識を深めたいと思うようになりました」と振り返ります。目標が明確だったため、高校進学は考えず、公認会計士の勉学に専念できる中部学院大学各務原シティカレッジの道を選びました。

2009 年 1 月。長谷川さんは会計プロフェッショナルコースの聴講生として、学校の授業がない週末に足を運びました。最初のころは「みんな集中しているので、張り詰めた緊迫感があって緊張しました」（長谷川さん）が、目的意識が高く、同じ目標を持った仲間と徐々に打ち解けました。1 日 8 時間の勉強も苦に感じなかったと言います。指導にあたる森教授は「こわばっていた表情も緩んで、さわやかな笑顔が見られるようになった」と言います。

昨春、中学校を卒業すると、各務原シティカレッジ本科生となりました。勉強時間は 1 日 10 時間に増えました。高校の単位取得を目指し、通信制高等学校で学びながら、専門学習をこなします。起床は毎朝 5 時半。夜 8 時過ぎまで参考書と向き合います。毎朝、シティカレッジのある各務原キャンパスに着くと、会計プロコースの教育理念の三条訓の唱和で幕を開けます。「少年老い易く学なり難し　一寸の光陰　軽んずべからず」「わたしたちは信頼される税理士・公認会計士になります」「わたしたちは簿記で日本一になります」。その言葉の意味を「深く感じるようになってきた」と長谷川さんはいいます。

ことし 1 月には公認会計士（短答式）に合格し、8 月の論文式に向けて準備を進めてきました。苦手科目に時間を大目に割く一方で、他の受験生と差がつきやすい科目にも力を入れて取り組んできました。8 月までのスケジュールを逆算し、順調に一歩ずつこなしてきましたが、試験 1 カ月前は怖くなって寝られない日が続いたといいます。一時は集中力を欠くこともありましたが、「失敗してもいい」と残された時間で可能な勉強法に切り替え、試験に臨みました。晴れて合格の日を迎え、「早く実践の場で力を試したい」と力強く抱負を語りました。